

第27号

発行所 大阪市史跡 龍溪禅師墓所  
靈亀山 九島 禅院  
〒550 大阪市西区本田3丁目4-18  
☎06-583-2725  
発行人 住職 奥田 啓知 (智證)

横綱

三代目

若乃花誕生

百尺竿頭に一步を進め

大相撲夏場所で優勝した大関若乃花が横綱審議会の推薦を受け、第六十六代横綱に昇進しました。史上初の兄弟横綱が誕生し、低迷が続く大相撲人気回復への起爆剤にと期待が集まっています。

身長一八一センチ、体重一一一キロ、今場所での幕内力士の中でも五番目の軽量力士である小兵が、屈指の稽古熱心と相撲にかける情熱で、横綱をつかみとりました。

「堅忍不拔(けんんにんふばつ)の精神で精進します」との横綱昇進の伝達での口上は、我慢強く耐え忍ぶという意味で、小兵というハンディ、場所中に傷めたひざをかかえつつ、横綱の重責を負うこととなった新横綱の悲壮な決意を示したものとと言えるでしょう。

相撲の世界では、たとえ実父であっても親方、母親をおかみさんと呼び、師匠と弟子の関係は厳しいものです。禅の世界も同じで、師匠と弟子の関係は厳格で、禅家の師匠は、手をとっ

て教えません。常に弟子は師匠から奪い取るようにして学ばなければなりません。師匠と弟子の関係は、しばしば「碎啄の機(そつたくのき)」とよばれます。卵の内部から、雛が殻を破ろうとつづくのを碎(そつ)、親鳥が呼応して外からつづくのを啄(たく)といいます。タ、イミングが合わないとは雛は死んでしまいます。「碎啄の機」といわれるタイミングが、生命の誕生にも、禅の修行にも極めて大切なのです。過保護に、あまり早く教える、形式を覚えるだけで、一向に身につかず、また依存心ができて応用力が身につきません。といって、自分で会得するものだ、強調するあまり、放任主義でも、できの悪い自己流の人間になってしまします。

問題を一挙に片づけることができるのです。よい師匠というのは、そういう「碎啄の機」をつかんでヒントを与えるのがうまい人で、よき師匠に恵まれることが大事なのです。評論家の草柳大蔵さんは、よき師匠とは「顔を合わせたり、そばを通っただけで、おそろしい感じのする先生」つまり「師匠とは、弟子がそう感じるだけのものを持ち合わせていなければ本物ではない」と言っておられます。いい得て妙だと思えます。



27日、東京都中野区の子二山部屋

大阪にオリンピックを!

九条に中華街を!

二十一世紀まであと二年!

# 佛祖報恩大授戒会に参加して

## 山根 志ずるゑ

「佛祖報恩大授戒会」が、四月十八日・十九日の二日間河内美原町にある黄檗宗法雲寺で啓建（厳修）されました。得戒大和尚に大本山萬福寺管長貌下をお迎えして、役位（お世話する和尚方）六十数名に本戒六十名・代戒七十名・追贈戒四十六名の規模で無事盛大に終えることができました。小柄も書記の役職で準備段階からかわってきました。当院からは、西宮の山根志ずるゑさんが、本戒をお受けになりました。

山根志ずるゑさんの感想を小柄が聞き書きし、ご紹介させていただきます。

○第一印象は本当に広いお寺でした。

※法雲寺は狭山藩主北条氏朝公が開基となつて、慧極禪師が寛文十二年に復興した、山口県萩の東光寺など末寺四十八ヶ寺を有する。境内地一万坪。天王殿をはじめ七堂伽藍が整

った大阪では屈指の黄檗寺院です※

○食事作法は茶の作法にも通じており、食べ物として命を頂くことに気づかされ、感謝ということを孫にも教えたい

※食事は禅宗のきまりにより報恩・感謝の念をもって頂きその来るところの所以ゆえに一滴、野菜の一切れをも粗末にしない。その為、食前食後には心をこめて誦経し、食事中は器物・食器の音をたててはなりません※

○お堂内での三拝や胡起（膝たち）がしんどかったが、荘厳な雰囲気、普段どれほど気楽に過ごしていたかがわかった。またお説教も素人むけの話題で判りやすかった。

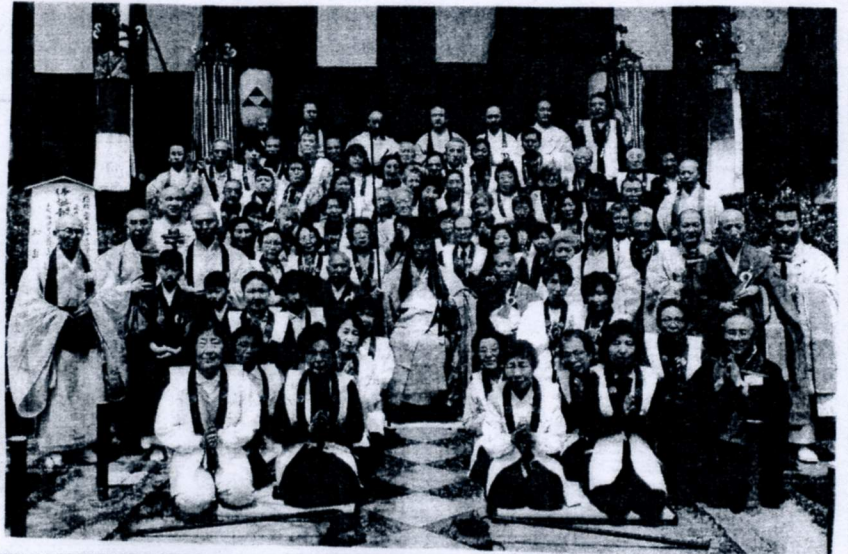
※今回のお授戒は、お釈迦さまのお弟子になる儀式で、審戒懺悔（生まれてからの自分

の生き方を振り返り悪行を悔い改める）滅罪焼却（過去の罪・咎を白紙に書き法火で浄化する）剃頭（煩惱・妄想を剃り落とす）清浄無垢な世界に入る、俗におかみそりの儀式）授三帰依・五戒（佛・法・僧の三宝に帰依し、五戒を受

ける）袈裟・戒牒（釈尊以前の過去七佛よりの法の流れを記した血脈）をうける）という法式を、伝統に基づき現代的にわかりやすく受けていただきました※

○人生の終わりに有り難い体験をさせて頂き、お戒名にふさわしい生活を心掛けたい

※この仏道修行は、お釈迦さまの教えを聞きそのお弟子と



なり、その教えを日常生活のなかで実践することにより、自らが具えている佛心（慈悲心）に目覚められるお手伝いするのが目的なのです。死ぬことが成仏ではなく、今生において是非に仏さまになって頂きたいのです。禅宗では、生前授戒がほんらいの姿なのです※

大阪にオリピックを！

九条に中華街を！

二十一世紀まであと二年！

### 第五回修養会のご案内

本年の修養会は、石庭で有名な龍安寺、臨濟宗妙心寺派本山妙心寺塔頭雲院（非公開）は、ともにも当旅出の教授寺でした。こをに寺閣千光寺を拝します。雲院（非公開）は、ともにも当旅出の教授寺でした。こをに龍安寺と妙心寺塔頭雲院（非公開）は、ともにも当旅出の教授寺でした。こをに院ご開山龍溪禅師のゆかりの寺院は、高名な京都大学名誉教授の講義を聞かされた。是非、お誘い下さい。

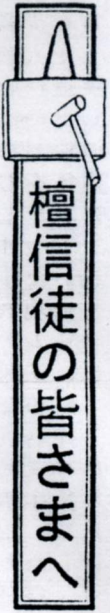
#### 募 集 要 項

- 日 時 10月25日（日）（8時半出発）
- 集合場所 九島院より貸し切りバスに乗車
- 旅 程 九島院-龍安寺-雲院（講演）-嵐山（昼食）-大悲閣-九島院（4時半頃解散）
- 会 費 1万円（食事・拝観料込み 当日徴収）
- 募集人員 40名（満員になり次第締め切り）

※先着順です。申し込みは、当院（☎06-583-2725）まで。出発当日の半月前に確認書をご郵送します。

○お盆棚経日程変更のお願い

既報のように、当院のお手伝いをしていたら、下山されました。自坊の禅寺の後住に、例年どおりの加担が出来ず、本年のお盆の棚経から、大幅な日程変更を余儀なくされます。日時の変更は無理ですので、ご寛容の上ご協力

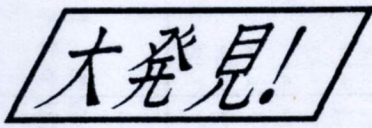


下さい。

#### ○第八次訪中国の募集

今秋十一月十七日より十日間の日程で、中国福建省にある古黄檗萬福寺で今春上棟した禅堂および復興完成の日中合同落慶法要が盛大に行われます。煎茶連盟の方々も参加され、一般にも参加募集されることとす。小柄も

二十一世紀にはいる平成十二年は当院創建三百三十年です！



参加を予定しておりますが、めったにないこの機会をおみのがしなくご参加下さい。詳細は9月早々にはでますので、お問い合わせ下さい。

#### ○武勲録の公開

既報（二十五号）の武勲録、今夏の水灯会（お施餓鬼法要）の席で、公開致します。本田小学校の校長先生が、記載の英霊の關係者を探しておられます。心当たりの方は是非ご一読下さい

過日、梅田の古書店で「名家門人録集（上方藝文叢刊）」なる本を求めた。同書掲載の篠崎小竹門人帳には、九島院徒弟 僧 恵眼という人物が、文政二己卯年十月十四日付けで、同師の門人になっていた。

篠崎小竹は、頼山陽の親友で、「詩文は小竹に勝り、小竹の吾に勝るものは書なり」と言わしめた儒学者である。京町堀に生まれ、土佐堀に梅花社を開いていた養父篠崎三島の跡を継いだ。当時の文人・墨客で小竹を訪れぬ者はなかったという。

僧 恵眼は、当院十五代住職で、天保六年に本堂を再建（戦災まであった）した大功績がある。思いがけず、歴代和尚の足跡をかいま見、和尚としての研鑽を積むことの大事さに頭の下がる思いがした。本堂には小竹の襷子や額が掛かっている

編集後記

▼四月十七日福岡県の圓鏡寺末永一道和尚さまが示寂されました。世寿八十九歳。家内と津送（本葬）に参列してきました。

▼昭和の始め頃、当院には三道という、道の字がつく和尚が三人いました。大野一道、武内秀道、そして末永一道和尚さまです。先々代住職榮忠和尚を補佐して、寺門の発展

に尽くされました。

▼末永一道和尚さまは、昭和二十五年圓鏡寺に保育園を開園され、幼児教育一筋に打ち込むかたわら、黄檗宗宗内の重職を歴任され、惜しまれつつも旅立たれました。

▼弊師弘忠和尚、常休寺坊守普喜発子さまをはじめ、戦前の当院を知る方々が、次々と鬼籍に入り寂しいかぎりです。

▼当院檀家の絹川勝一氏より「絹川家系譜」をご恵贈いただきました。同家は代々の豊前小倉藩の家臣で、系譜は明

治十七年、天覧試合に出場し市岡中学・四條畷中学や警察署で剣道指導にあたった絹川清三郎氏など代々のご先祖の由緒を調べ上げた労作です。

▼三代さかのぼれば、その出自さえ判らないお家がほとんどでしょうが、ご先祖のことをお盆で帰省された時などは非ご親族で語り合っただけで下さい。

墓地管理費のご納付をお願いいたします。墓参の折、郵便為替でも結構です。

● 逆縁 (ぎゃくえん)

「鉄道員(ぼっぼや)」浅田次郎著。昨年の直木賞を受賞した珠玉の短編集です。

主人公は北海道の幌舞駅駅長の乙松(おとまつ)鉄道ひとすじの人生で、一人娘を生後ふた月で亡くした時、妻を2年前に亡くした時、たった一人の駅員のため仕事で死に目にもあえなかった。翌年の定年をむかえる大晦日の夜、最終の列車が去った駅に、十七年前に亡くしたはずの娘雪子が、真赤なランドセルをしょった女の児、次には赤いマフラーを巻いた少女、美寄高校の女子高生と順次すがたを変えて現れ、駅長乙松をなぐさめる。駅長の乙松が、ホームの端の吹きだまりに、手旗を握って死んだのは、正月二日。その一人娘の命日だった。涙なくして読めない名作でした。

先日、初孫の満中陰の回向をしてほしいと依頼がありました。聞けば、超未熟児のため、出産直後が集中治療室の保育器で育てられ、ようやく一年がたち、両親のもとに退院出来ようかという矢先に急がた逝したため、息子夫婦が不憫でなかなか立ち直れず、自分たちだけで葬儀をすませ、満中陰もしないでこのことでした。先だってテレビのニュースで超未熟児が無事育っているとの報道があっただけに、両親の思いもひとしおだったにちがありません。

本来ならば自分たちより早く死ぬ(順縁)はずの小さな生命が、自分たちより早く死んでしまつた(逆縁)という悲しみは、癒しや慰めようもありません。俳人一茶も句に託して次のように詠んでいます。「親が死に子が死について孫が死に」逆縁の人である一茶自身の悲しみが逆説的に表現されています。これこそ、子を失った親の気持ち、悲しみなのでしょう。

おほお  
本堂でのご回向の後、参詣の祖母さんに、「鉄道員(ぼっぼや)」の一節を紹介しました。生後ふた月で死んだ一人娘雪子が父親の乙松に「したって、おとうさん、なんにもいいことなかったしよ。あ、たしも何ひとつ親孝行もできずに死んじゃったしよ。だから、(お父さんに十七年間の育っていく姿をみせたかったの)」

生に縁うすい子も、けっして両親を恨んだりしません。縁薄かったけれど、生んでいただいたことに感謝しています。逆縁という、悲しみをあたえたことを心から詫びているはずで

ねも うすぐ雪です  
私をあげる雪  
雪の降る夜に  
お母さん夜に  
お母さん夜に  
お母さん夜に

水灯会・うらぼん施餓鬼

8月19日(水)  
午後1時半より  
ご先祖供養です。宗旨に関係ありません。ご回向お申し込み下さい。

法 話 ・ 住 職

二十一世紀にはいる平成十二年は当院創建二百三十年です!